

# 厚生労働省職員派遣による 支援研修を受講して

～ 桜井市に合った総合事業の検討 ～



桜井市マスコットキャラクター  
「ひみこちゃん」

奈良県 桜井市

高齢福祉課 前川 良太

鳶岡 歌織

# 桜井市の状況（R3.1.31現在）

- 人口：56, 279人
- 65歳以上人口：17, 745人
- 75歳以上人口：9, 043人
- 高齢化率：31. 5%
- 介護認定率：19. 3%

山間地域と平地があり、圏域により高齢化に差がある

# 参加の動機

- 総合事業開始当時から、サービスCについてどうしていくか悩んでいた
- サービスB、Dについても同様にサービスとして立ち上げるべきか悩んでいた
- 一般介護予防のあり方について悩んでいた

# エントリー時の課題

- サービスCについて
  - 卒業後の受け皿をどうするか
  - 自立支援型地域ケア会議の活用

# エントリー時の課題

- サービスB,Dについて
  - 自主組織に対して補助金が少ない
  - サービス化することで対象者が限定される
  - 申請、請求など事務負担をどうするか

# エントリー時の課題

- 一般介護予防事業について
  - 委託している介護予防事業とのすみ分け
  - 地域包括支援センターとの認識のずれ

# 第1回支援での気づき

- 桜井市には通いの場が多くある

包括支援センターや市社協が保有する  
情報を共有することで住民主体の取組を  
発展させる関わりができるのではないか

# 第1回支援での気づき

- 庁内連携の不足

介護部門では高齢福祉課と地域包括ケア推進室の2課にまたがっており、お互いの課が実施している事業をよく知らない。



# 第1回支援での気づき

- 個人の知識不足

担当者が異動になり引き継いでいるので  
経緯がよくわかっておらず、事業に対する  
知識が不足している

# 第1回支援後に実施した事

- 担当者間でミーティング  
新たにサービスを創る必要性の検討



- ▶ 情報やニーズを集めていくこと
- ▶ 通いの場等の支援を強化し発展させること

# 第1回支援後に実施した事

## <具体的な内容>

- ①老人会や通いの場等の活用の検討
- ②生活支援体制整備事業についての  
情報共有
- ③保健センターとの連携により保健事業  
も一体的に実施

# 第1回支援後に残された課題

- ①通いの場の集約、整理
- ②ケアマネジャー等への周知
- ③自立支援の考え方を住民へ周知

# 第2回支援での気づき

- サービスC等の事業をつくらないといけない  
という思い



- ▶ 住民にどうなって欲しいか、そのために  
どんな資源が必要か

# 令和3年度に実施すること

- 元気度チェックを活用したニーズ調査
- 通いの場への訪問と専門職派遣
- 包括支援センター、市社協、保健センターとの情報共有と今後の取組の検討

ご清聴ありがとうございました！

